

長崎県 障害者

スポーツ協会だより

発行：令和2年10月
編集/発行：(一社)長崎県障害者スポーツ協会
〒852-8104 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター

TEL：095-894-9686 FAX：095-849-4703
E-mail：hdcps-sports@mbn.nifty.com
URL http://nagasakisports.c.ooco.jp



令和元年度スポーツ協会表彰



東京パラ強化指定
浅野選手(卓球)と支援コーチ



前回の東京オリンピック(水泳)
出場の松崎先生



目次

- ◆ 会長挨拶 2
- ◆ 「第20回長崎県障害者スポーツ大会」について 3
- ◆ 「第20回全国障害者スポーツ大会」について 3
- ◆ トピックス 4
- ◆ スポーツ活動の情報 7
- ◆ 令和元年度長崎県障害者スポーツ協会事業報告及び決算報告 9
- ◆ 協会事務局からのお知らせ 10～12



長崎県障害者スポーツ協会
会長 土岐 達志

全国障害者スポーツ大会を

振り返って

廣川前会長の後を受け、県障害者スポーツ協会会長を拝命して早10年になります。県選手団長としての初参加は第10回千葉大会で、前身の全国身体障害者スポーツ大会を含め開閉会式は史上初の屋内での開催となりました。特に印象に残っているのはサッカーの大健闘でした。過去9回の大会すべて1回戦で負けていたのが、1試合・2試合目と勝ち進み、優勝戦では強豪東京に惜しくも負けましたが、堂々の準優勝に輝きました。千葉大会で行われたオープン競技で、「ボツチャ」というヨーロッパ生まれのパラリンピック正式種目に出会いました。ボツチャは重度脳性麻痺者や四肢重度障害者のために考案されたスポーツです。ボールを上から

投げても下から投げても蹴っても良く、障害により投げることができなければ滑り台(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できる画期的なスポーツです。

次の山口大会の年には、あの千年に一度といわれる東日本大震災が発生して多くの方が犠牲になり、9年経った今も約4万8千人の方々が避難生活を強いられています。そんな中、大震災により甚大な被害を受けた被災地から「長崎がんばらば国体・がんばらば大会」に参加する監督・選手を支援するため、「がんばくん募金」の一部が本県より被災3県と仙台市に贈呈されました。

そして「ぎふ清流大会」、「スポーツ祭東京」と続き、2014年には「長崎がんばらば大会」が本県で開催の運びとなり、長崎大会から所管が厚生労働省より文部科学省に移管され、スポーツ庁で一元的に推進されるようになりました。私たちは2012年、「長崎がんばらば大会の認知度向上」と「障害者スポーツの普及振興」を図る目的で、県や関係団体と連携してPRキャラバン隊を組織し、県内21市町を「がんばくん・らんばんちゃん」や関係者と訪問、大会の認知度向上に努めました。テレビ新聞等の

報道効果も大きく、大会1年前には認知度が8割を超す状況にまでなりました。

「君の夢 はばたけ今 ながさきから！」のスローガンのもと開催された長崎がんばらば大会は、全国から来県された多くの皆様の胸中に素晴らしい感動を残して大成功のうちを終了しました。

それから6年「わかやま大会、いわて大会、えひめ大会、ふくい大会」と続き、昨年の「いきいき茨城ゆめ大会」は台風19号で中止、「燃ゆる感動かごしま大会」は新型コロナウイルスの影響で残念ながら延期を余儀なくされました。

全国障害者スポーツ大会の歴史を10回大会から見てきましたが、各大会での長崎県選手への頑張りや多くの人々との出会いと交流、心からのおもてなしやたくさんの方の感動など、限られた紙面では言い尽くすことができません。

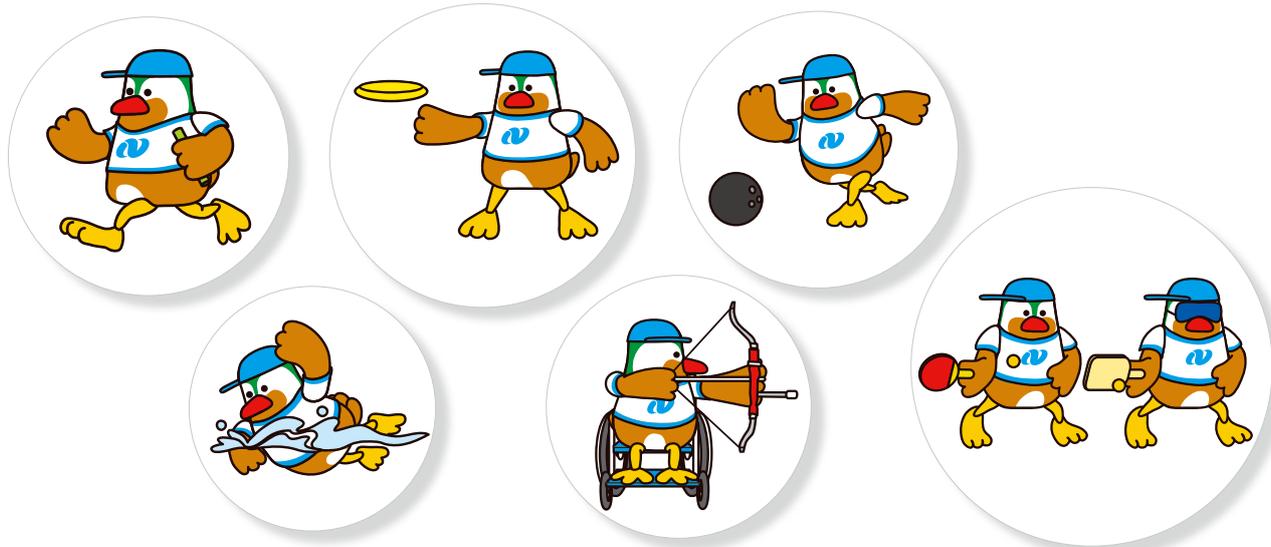
私たちは今後も、誰もが健康で元気に暮らせる共生社会実現を目指し、身近にパラスポーツを楽しめるまちづくりに取り組んで行く決意です。

第20回 長崎県障害者スポーツ大会

「第20回長崎県障害者スポーツ大会」は5月31日（日）に「第20回全国障害者スポーツ大会」の選手選考会を兼ね、トランスコスモスタジアム長崎を主会場に約2,000名の役員・選手参加のもと、開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、中止することになった。

因みに、本大会参加申し込みをされた選手数は下記のとおりであった。

競技会場	競技種目	会場地	参加者数
トランスコスモスタジアム長崎	陸上競技	諫早市	433名
県立総合運動公園補助競技場	フライングディスク	//	251名
諫早市中央体育館（メイン）	ボッチャ	//	137名
諫早市中央体育館（サブ）	ユニカール	//	63名
大村市アーチェリー場	アーチェリー	大村市	7名
県立総合体育館	卓球【含：STT】	長崎市	80名
長崎東公園コミュニティプール	水泳	//	90名
長崎ラッキーボウル	ボウリング	//	334名
		合計	1,395名



第20回 全国障害者スポーツ大会

「第20回全国障害者スポーツ大会」は10月24日（土）～26日（月）の3日間、鹿児島県において「燃ゆる感動かごしま大会」として開催される予定であった。

長崎県代表選手は、選手選考を兼ねた県障害者スポーツ大会の中止の状況を踏まえ、昨年度「いきいき茨城ゆめ大会」の派遣決定選手及び昨年の県大会の成績を参考にして、個人競技33名の選手を内定し、団体競技も九州ブロック競技運営団体の推薦を得たチームを内定していたが、新型コロナウイルス感染の状況が深刻化した5月末に「かごしま大会」の年内開催が不可能となり、派遣に関する準備は中止となった。





競技ボッチャに親しむ

既に、四半世紀前になるが、仕事で横浜市に単身赴任中のこと、体調に異変を感じ精密検査を受けた。通告された病名は頸髄内腫瘍（C1レベル）、手術後半年間の休職リハビリの厳しい生活が続いた。聞いていた通り体幹機能障害は残ったが何とか復職し、周囲の協力もあり定年まで勤めることができた。

定年後のセカンドライフをどう過ごすか、特段の趣味も特技も無いなかで、長崎市障害福祉センターの存在を知り、障がい者スポーツと出会った。健康体操やストレッチ運動といった機能訓練を受けながら、風船バレーやボッチャ・フライングディスクなども楽しんでいる。

その腕試しとして長崎県障害者スポーツ大会には、第16回大会から採用されたボッチャにエントリー、自身のチームは予選敗退が続くも、前回大会では同僚チームが準優勝を成し遂げた。

昨年5月に長崎県ボッチャ協会が設立されたのをうけて、「Nagasaki Boccia Club」として活動を開始して1年経過した。

メンバーは長崎市障害福祉センターを利用している20歳から68歳までの老若男女12名、不定期ながら月2回ほど同センターで、協会や長崎県障がい者スポーツ指導員の支援を受けながら練習に励んでいる。近年では、誰でも出来るレクボッチャとして広がっていますが、当クラブは全国障がい者スポーツ大会競技規則に準じた運用としており、現時点では会員は肢体不自由者に限定している。

的玉に近い方が勝ちという単純なゲームですが、相手のコースを塞いだり、相手のボールを弾き飛ばしたり、的玉を押ししたり、攻守のパターンは多種多彩な奥深さがあり、楽しいものです。

また、課題も見つかってきました。まずは競技ルール、全国大会仕様は県大会でやってきたことよりかなり厳しく規定されており、選手のみならず介助者にもペナルティを課される行為が散見され、互いに基礎知識を習得する必要があります。

また、高額な道具も自前では準備出来ないため、センターから借りている身ですが、補助具（ランプ）はプレイ範囲を狭める長いもので、ボールが歪んだりしていて……。そして何よりも誰も全国大会に出場したことが無いという事もあります。

来年開催予定の「三重とこわか大会」からボッチャが正式種目となるので、初代長崎県代表選手を当クラブから送り出せるよう、和を重んじ技術力を高めていきたいと思っています。



今年は新型コロナウイルス感染拡大により長崎県障害者スポーツ大会が中止となり、対外試合の機会が無くなったところに諫早市の九州ガスホールディングスの共催で「2020長崎県障がい者ボッチャ大会」の開催を企画して頂き、誠にありがとうございます。

長崎県障害者スポーツ協会には、他団体との交流試合の場を設けるなど、引き続き橋渡し役をよろしく願います。



長崎ボッチャクラブ代表
稲富 文夫

県庁ロビーでボッチャのミニ講座開催

県スポーツ振興課 斎藤 亜紀子

県スポーツ振興課では、庁内ミニ講座において、職員向けに総合型地域スポーツクラブの紹介及び貯筋運動とボッチャの体験会を行いました。

県庁1階エントランスロビーに紐と養生テープで即席のボッチャコートを設定。県障害者スポーツ協会よりお借りしたボッチャセットを使って、当課職員が簡単にルールを説明。全員が初心者にも関わらず、最初から対戦方式で行ったボッチャは大盛り上がり。ボールを投げる人だけでなく、観ている人も熱くなれる大変魅力的な競技だと思いました。

また、車椅子の職員もボッチャを初体験し、「今まで興味はあったが、やる機会がなかった。こんなに楽しいとは！また機会があればやりたいです！」とおっしゃっておられ、ボッチャは、障害がある人もない人も一緒に楽しめるスポーツだと改めて認識することができました。

県内の総合型地域スポーツクラブでも、ボッチャの体験会を行ったり、新種目に取り入れられたりしています。今後、県内でもさらにボッチャが広まることを願っています。



フロッカーで親子レクリエーション開催

8月26日(金)佐世保市立鹿町小学校において、地域における障害児との触れ合いはもとより児童の保護者も参加して、親子レクリエーションが開催された。

開催の目的は、障害者スポーツの体験や見聞を通して、障害者スポーツに興味・関心をもち、障害者及び障害者スポーツへの理解を深めることであり、本協会からも「フローカーリング」「ヒットだ！ターゲット」の指導に汗を流した。

新型コロナウイルス感染拡大予防で体を動かす時間が少なくなっている児童の久々の笑顔が印象的だった。



令和元年度 スポーツ協会表彰

6月21日(日)令和2年度一般社団法人長崎県障害者スポーツ協会の定期総会において、令和元年度長崎県スポーツ協会表彰の授与式を執り行った。

受賞された皆様をご紹介します。

表彰おめでとうございます

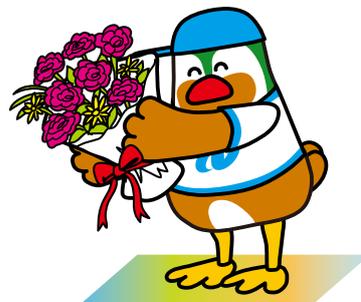
特別功労賞：九州ガスホールディングス・石橋善弘

功 勞 賞：松崎ヨシ子・林田綾子・安里より子

優秀指導者賞：長岡純斉・山下祐司・原田竜生

優秀選手賞：副島正純・浅野 俊・江口侑里・木村勇聖・間ノ瀬俊輔・岩本将希・岩村真来人

(敬略省)



KTN スポーツ振興財団から表彰

令和2年(公財)KTNスポーツ・文化振興財団の表彰が執り行われました。

この賞はスポーツ・文化活動の分野で地域社会に大きく貢献し、国内外の大会で活躍を続け、県民に感動を与えた個人13名・団体4団体に功績を称え贈られた。本協会からは、優秀選手賞として、浅野 俊【瓊浦高等学校】、江口侑里【長崎県警】に栄賞が授与された。

尚、授与式は新型コロナウイルス感染拡大の状況であり、執り行われることができず、直接、賞状と副賞が受賞者に届けられた。



瓊浦高等学校
(卓球)
浅野 俊



長崎県警
(車いすバスケットボール)
江口 侑里





佐世保特別支援学校での フライングディスクの取り組みについて

佐世保特別支援学校 高等部教諭 船場 幸一

本校は、知的障害教育、肢体不自由教育併置の特別支援学校であり、小学部から高等部まで約 260 名の児童生徒が学んでいる。今回は、肢体不自由教育部門高等部の取り組みについて報告します。

フライングディスクの授業では、アキュラシー競技（※）を中心に行った。今までは、フラフープをゴールに見立て、天井からつり下げたり、三角コーンに貼り付けたりしてきたが、スポーツ協会から借用した競技用のものを使用すると、生徒たちがより興味を示し、今まで以上に意欲的になった。

ディスクを自分で投げる生徒は、3メートル手前の位置から始め、徐々に距離を延ばし、5メートル先のゴールを通過させることができるようになった。

初めて5メートル先のゴールを通過させたときの生徒の喜ぶ様子は、日頃見たことのないものだった。

また、自分で投げるのが難しい生徒は、ゴムを利用した補助具でディスクを飛ばすこととした。なかなかゴールを通過することは難しかったが、どうしたらゴールを通過できるかを考え、補助具の向きや角度を変えたりして、自分なりに工夫して取り組んでいた。

また、学期の終わりには、球技大会と銘打ち、フライングディスク大会を行った。正式なルールとは異なるが、投げたり飛ばしたりした距離や位置で得点を競い、高等部生徒全員が参加できた。競技する生徒も補助する教師もとても夢中になり、笑いの絶えない盛り上がった大会となった。

このような学校での体験に基づき、児童生徒がフライングディスクを始めとして様々な障害者スポーツに興味をもち、体を動かすことに困難があっても「私にもできる。」と実感し、仲間と一緒に楽しみ、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを切に願っている。



アキュラシー競技（※）

5メートルまたは7メートル離れたアキュラシーゴール（直径91.5センチメートルの円形）に向けて10回投げ、その通過回数を競う種目

赤い羽根「テーマ募金」による活動費助成で活性化

2020 長崎県障がい者ボッチャ大会を開催

例年、年度末に取り組んでいる長崎県共同募金会の赤い羽根共同募金「テーマ募金」活動では多くの企業のほか個人有志の方のご協力で、多額の浄財をいただき、障害者スポーツの普及活動に活用させていただいています。

今年度、「テーマ募金」の趣旨を活かす活動として、「2020 長崎県障がい者ボッチャ大会」を開催します。本大会はテーマ募金にご賛同いただいています「九州ガスホールディングス杯」として開催します。大会要項・参加申し込み等は、協会ホームページでご確認ください。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない現状の状況を踏まえての企画ですが、感染対策は運営・参加者の感染予防に万全を期し、会場の利用ガイダンスを遵守して準備を進めます。

パラリンピック正式競技であるボッチャを定着させ、ボッチャ愛好者の普及拡大を図ることを目的とするとともに、ボッチャを通して、参加者同士の交流を図り、生涯スポーツへの意識を高める機会となるよう、今後も継続をすることを目標として開催しますので多くのご参加をお願いします。



令和2年度
障がい者スポーツ指導員初級養成講習会を開催します。



例年どおり、障がい者のスポーツ振興と競技力向上に当たる指導者を養成する目的で実施します。

- ◆開催期日：令和3年1月16日(土)・17日(日)・23日(土)の3日間
- ◆開催会場：長崎県総合福祉センター【県社協棟】
長崎市障害福祉センター【もりまちハートセンター】
- ◆対象者：県内在住で、障がい者スポーツ・レクリエーション活動従事者や、興味のある18歳以上の方(令和2年4月1日現在)
- ◆募集定員：20名
- ◆申込期間：令和2年12月1日(火)から12月21日(月)まで
- ◆申込希望者：(一社)長崎県障害者スポーツ協会へご連絡ください。

※(一社)長崎県障害者スポーツ協会のホームページでも確認できます。

■TEL：095-894-9686

■FAX：095-849-4703



長崎県障害者スポーツ協会

検索

令和元年度

一般社団法人長崎県障害者スポーツ協会事業報告及び決算報告

(令和2年6月21日(日)開催の令和2年度総会で承認されました。)

事業報告

I. はじめに

本協会の設立目的に沿い、計画各事業の推進に積極的に取り組みました。
 さらに、障害者の健康体力の維持増進のためのスポーツ拠点や指導体制を整備し、障害者スポーツのなご一層の普及振興を図ることを目的として、障害者の社会参加推進の要となる諸事業に取り組みました。
 「福祉販売」、「テーマ募金」などの事業も積極的に取り組み、組織強化の基盤を目的に推進しました。

II. 総括

1. 会議

- (1) 総会
令和元年6月30日(日)に開催
- (2) 理事会
令和元年5月31日(金) 令和2年3月19日(木)に開催 臨時理事会 令和2年1月15日(水)に開催
- (3) 正副会長会
令和元年5月17日(金) 令和2年2月25日(火)に開催

III. 実施事業

- 1. 第19回長崎県障害者スポーツ大会の開催
令和元年5月26日(日) 役員・選手・競技役員・補助員、2,044名が参加した。
- 2. 全国障害者スポーツ大会選手団強化練習及び派遣事業
令和元年10月12日(土)～14日(月)開催の「いきいき茨城ゆめ大会」に役員選手86名の派遣を決定し、選手強化事業等に取り組んだが、大型台風19号の襲来により、「第19回全国障害者スポーツ大会」は全日程中止となった。
- 3. 障害者スポーツ普及・活性化事業
「長崎がんばらんば大会」の成果や機運を一過性のものとせず、今後につなげていくため、スポーツ・レクリエーション教室や競技力向上支援等の取組みを行った。
 (1) 障害者スポーツ人材バンク(現在の登録者:91名)
 (2) 障害者スポーツ・レクリエーション教室の開催(派遣状況:38カ所に延べ86名・6競技団体を派遣した。)
 (3) 各団体競技チーム等の競技力向上のための支援
- 4. 東京パラリンピック等アスリート特別強化事業
本県在住の、東京パラリンピックやデフリンピックに向けて出場が期待される選手が、JPC加盟競技団体が指定する国内外の各種大会、強化合宿に参加するために3名の強化指定選手に必要な遠征等に対する支援を行った。
- 5. 障害者スポーツ振興事業
 (1) 地域スポーツ交流事業(県内12カ所で延べ421名が参加)
 (2) 障害者スポーツ指導員養成事業(12月に長崎市で開催20名が受講)
 (3) 障害者スポーツに関する調査研究事業(県外で開催の主要会議に出席した。)
 (4) 障害者スポーツ活動等支援事業(平成30年度県障害者スポーツ協会表彰を実施した。第19回全国障害者スポーツ大会九州ブロック地区予選会の開催(フットベースボール競技を実施した。))
 (5) 広報・公聴事業(協会だよりの発行、HPの随時更新、報道機関へ活動情報提供した。)

IV. 物品販売事業の推進(福祉販売:売り上げ活動会員28団体)

V. 障害者スポーツ活動等振興助成事業

会員38団体が申請し、82事業に助成した。また、全国障害者スポーツ大会九州ブロック予選会への参加費用及び、活動費を10チームに助成した。

VI. 赤い羽根共同募金「テーマ募金」(共同募金会から1,600,000円の助成があった。)

VII. その他の事業(賛助会員の増員)1団体・513名の会員増

- ・団体賛助会員・・・18【1団体増】
- ・個人賛助会員・・・521【513名増】

決算報告

I. 一般正味財産増減の部
1. 経常増減の部

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

①経常収益				②経常費用					
	当年度	前年度	増減		当年度	前年度	増減		
特定資産運用費	11	9	2	事業費 法人会計	受託事業	15,828,998	25,627,216	△9,798,218	
受取会費	1,339,000	767,000	572,000		スポーツ振興事業	3,605,869	2,985,017	620,852	
事業収益	2,218,200	2,543,100	△324,900		東大会選手団助成事業	4,140,991	4,242,032	△101,041	
受取補助金	公共団体補助金	20,630,500	21,424,220		△793,720	物品販売事業	2,058,033	2,255,847	△197,814
	受託収益	15,800,418	25,627,216		△9,826,798	管理費	7,949,686	8,080,498	△130,812
	民間助成金	1,777,456	1,670,000	107,456	振興助成金	8,761,000	8,858,572	△97,572	
雑収益	349,213	197,273	151,940						
経常収益計	42,114,798	52,228,818	△10,114,020	経常収益計	42,344,577	52,049,182	△9,704,605		
				当期経常増減額	△229,779	179,636	△409,415		

協会事務局からのお知らせ

令和2年度 一般社団法人 長崎県障害者スポーツ協会 ～御協力ありがとうございました～

◆ 賛助会員一覧

賛助会員（団体）

株式会社 岩永印刷	長崎県営バス観光 株式会社	和風スナック 篝火
東武トップツアー株式会社 長崎支店	和光スポーツ	上五島建設 有限会社
名鉄観光サービス株式会社 長崎支店	株式会社 JTB 長崎支店	株式会社 ライフテック
株式会社 クレイン いずや	株式会社 メモリード	昭和スポーツ
日本紙工印刷 株式会社	株式会社 クリエイトオフィス	ワークプラザ 松浦
協和機電工業 株式会社	株式会社 ひろたか	特定非営業活動法人 ふれあいネットワーク・ピア
株式会社 昭和堂	ヨシスポーツ	社会福祉法人 大村パールハイム
社会福祉法人 ゆうわ会 すずらん	長崎県西彼福祉事務所	長崎ライオンズ国際協会 337-C 地区 2R・2Z
NPO法人 県央障害者自立センター	長崎リハビリテーション	長崎天領ライオンズクラブ
社会福祉法人 民生会 白岳学園		

賛助会員（個人）

林田 綾子	鬼塚 富美	亀田 信樹	奥野比呂志	松崎ヨシ子	原口留美子	永間佐代子	大串近太郎
崎村 俊策	田淵 勝利	馬場由美子	真鳥 市郎	飛口 廣	永間 忠康	大賀 義信	松本さつき
仁藤 和彦	中村 浩二	小松 誠一	福森 悠史	本多 貴代	川口 祐汰	中島 勝也	池田 陽子
西村 玄人	梅原 健介	宮崎 修平	山口 知子	寺崎 秀子	川村 麗子	日野出悦子	椿山 和彦
児玉浩三郎	宮崎 深幸	野澤 由夏	尾崎 泰規	入江 勝			

県立希望が丘高等特別支援学校

松尾 徳男	坂本 務	小原 基子	立木 佳代	古賀美穂子	黒川 恵里	副田 恵太	高橋 正範
池田 順子	藤本由紀子	中山 貴恵	綾部 恭介	日高 政彦	山口由紀子	東川 操	戸上 陽子
井手 真也	道淵 忠之	岩村 征和	小森 信夫	吉田さやか	村上 傑	松下 明雄	林田ちどり
宅島 秀和	山川恵美子	笠村 節子	杉本 貴久	西山 百合	辻 雅子	村山 多江	青見 淑子
山本みのり	三好 諒	前田 真一	野中かおり				

県立川棚特別支援学校

松田 竜司	大町 江里	米村 誠	豊田 真	稲垣 和宏	假屋 依子	宮本 隆洋	窄口 聖一
櫻井 隆雄	石塚 大夢	吉村 明	佐藤 智彦	佐仲 紀子	松田 芳誠		

国立長崎大学教育学部附属特別支援学校

田中 昭二	森川 元	西川 崇	浦江 活子	谷川 怜実	平山 梨香	渡邊 尚子	寺田 祐一
池田 麻希	山中 祐造	高谷 有美	立岡 里香	芦塚恵美子	中村 詩織	吉川 透	神寄 慎也
谷本かおり	假屋 健太	久田 有里	松山 明	山田 勝大	杉田 崇	佐藤 公彦	内藤 理子
勘田 陽子	竹下 成彦	得永美佐子	浦川 心	八重石憲佑			

県立ろう学校

石山 雅晴	坂本 志子	池下 寿美	深堀 睦美	西川 友香	岩崎 恵子	横尾由布子	松川美智子
西水 和美	竹市 弥生	古川 舞	有馬 碧衣	川波 麻弥	森 和裕	吉岡ももか	桑宮 みほ
渡邊 佳恵	伯野 陽子	兼 祥子	苑田 幸敬	白石 英子	山本 操	久保 哲也	高原 千恵
馬場真由美	野本 晃希	久保 政司	森川さより	小野 俊哉	北浦 葉二	川口 英隆	北村美希子
大串 尚央	岩永知佳子	下原 一郎	野中 玲子	中村 臣	脇川 怜子	井川 繁美	堂尾 航平
野沢 邦彦	大山 晋介	今里 尚武	寺崎 千博	北川 正宏	品川 哲哉	野中 貴志	高瀬 康洋
森 いづみ	森 亜有美	布澤 慶多	武 尚子	鳥山 志保	伊藤 善弘	吉田 明史	田中 健一
戸上 敦史							

県立鶴南特別支援学校

影本 正樹	松川 昇	河村 憲成	磯田 幸子	松島 友章	酒井 修平	岩崎ひなの	村田 大輔
野口 祐樹	荒木 七菜	新納 友二	田中 聡	杉本 倍達	檉山由紀子	高島 亜未	磯谷 美枝
永田亜希子	高木 元	板羽 絵理	田淵 康代	濱田 美香	徳永 雄	梅本 健一	中村 大悟
林田千賀子	久留 啓照	中島 唯	廣瀬ひとみ	日高 直美	岡野 裕介	牟田 康子	八木 美恵
下田 美紀	堀 克彦	近藤さやか	吉田 治子	山崎 翔矢	原口 恭兵	松隈 文	友永 光幸

◆ 正会員一覧【会員数：77】

障害者スポーツ協力団体	長崎県スポーツ協会	長崎県障害者卓球協会	
	長崎県社会福祉協議会	長崎県障害者バドミントン協会	
	長崎県特別支援学校長会	長崎県障害者フライングディスク協会	
	長崎県障がい者スポーツ指導者協議会	長崎県身障者アーチェリー協会	
	長崎陸上競技協会	長崎県ろうあバドミントン部	
	長崎県水泳連盟	長崎県車椅子バスケットボール協会	
	長崎県卓球連盟	長崎県車椅子ツインバスケットボール協会	
	長崎県アーチェリー協会	県央障害者自立センター	
	長崎県ユニカール協会	諫早市多良見町障害者スポーツ倶楽部	
	県及び地域障害者団体	長崎県身体障害者福祉協会連合会	上五島つばき
		長崎県知的障がい者福祉協会	長崎ふうせんバレーボール振興委員会
		長崎県手をつなぐ育成会	長崎ペンギンスイミングクラブ
		長崎県視覚障害者協会	諫早ペンギンクラブ
		長崎県ろうあ協会	長崎ロードランナース
長崎県身体障害児者施設協議会		スペシャルオリンピックス日本・長崎	
長崎県精神障害者家族連合会		JDSチーム	
長崎県精神障害者団体連合会		長崎ろう女子バレー部	
長崎県腎臓病協議会		長崎県知的障がい者サッカー連盟	
長崎市身体障害者団体連合会		障がい者スポーツチーム GENKI	
佐世保市身体障害者団体連合会		長崎男子デフバレー部	
大村市身体障害者団体連合会		長崎県知的障害者バスケットボール協会	
諫早市身体障害者福祉協会		長崎ソーシャルフットボールクラブ	
雲山市身体障害者福祉協会		ふれあいネットワーク・ピア	
五島市身体障害者福祉協会		若竹の会	
西海市身体障害者福祉協会		デフソフトバレーボールチーム	
島原市身体障害者福祉協会		全九州障害者ゴルフ倶楽部協会	
松浦市身体障害者福祉協会		元気っ子クラブ 希	
壱岐市身体障害者福祉協会		がんばらんば長崎	
平戸市身体障害者福祉協会		長崎サンライズ	
対馬市身体障害者福祉協会連合会		チーム愛・長崎	
南島原市身体障害者福祉協会		長崎Ladybirds	
生月町身体障害者福祉協会		九州障害者ゴルフ連盟 長崎支部	
田平町身体障害者福祉協会		SEA WEST バスケットボールクラブ	
佐々町身体障害者福祉協会		長崎県ポッチャ協会	
時津町身体障害者福祉協会			
長与町身体障害者福祉協会			
東彼杵郡身体障害者団体連合会			
波佐見町身体障害者福祉会			
東彼杵町身体障害者福祉会			
川棚町身体障害者福祉会			
新上五島町身体障害者福祉協会			
大島村身体障害者福祉協会			
長与町障害者団体連絡協議会			

●●● 協会会員募集 ●●●

一般社団法人長崎県障害者スポーツ協会は、スポーツ活動を通じて障がい者の自立と社会参加の促進に寄与するため、様々な活動に取り組んでいます。

協会の運営と主たる事業の実施については、主に県、市、町の補助金と委託金によって賄われていますが、障がい者のスポーツ振興を図っていくためには、さらに協会独自の事業、対応も必要であり、こうした取り組みには会員皆様からの会費収入などの自主財源が必要であります。

本県障が者スポーツ振興のために、より多くの団体、個人の方のご理解とご支援を頂きたくよろしくお願い申し上げます。

■ 賛助会員

- ・賛助団体
1口 5,000 円以上
- ・賛助個人
1口 1,000 円以上

■ 正会員

- ・障がい者団体
1口 5,000 円の2口以上
- ・スポーツ競技団体
1口 5,000 円以上
- ・その他の団体
1口 5,000 円以上

入会方法にはついては、協会事務局にお問合せ下さい。
TEL : 095 - 894 - 9686



編集後記

秋の兆しを感じ始めた9月に入り、立て続けの大型台風の影響。離島をはじめ県内各地で被災された方も居られ、お見舞い申し上げます。

特に台風10号の通過予報に敏感に対応した経験が今後の教訓になることと考えています。建築以来初めてすべての雨戸を閉め、浴槽はもちろん、ペットボトルに飲み水を満タンにしたことを確認し、乾電池を求めて量販店・コンビニなど5～6店を走り廻ったがどこも完売でした。日頃の備えが大切ですね。(K)



このパンフレットは、赤い羽根共同募金の助成金により作成されたものです。